

リポジトリ詳細設計書記載ルール

ファイル名 ※拡張子は「. java」である	ファイル名
対応するエンティティ名	エンティティ名
所属パッケージ名	パッケージ名フルネーム

特記事項
特記事項

機能概要
機能概要
機能概要
機能概要
機能概要

使用列挙型	結果格納エンティティ	継承インターフェース	実装デフォルトメソッド
列挙型名	エンティティ名	インターフェース名	メソッド名
検索対象カラム	検索条件や出力時の方法	機能説明	ソート手順 ※上から優先的に

メソッド名			
カラム名	条件	クエリ実装内容の説明	ソート対象カラム
カラム名	条件	クエリ実装内容の説明	ソート対象カラム
		クエリ実装内容の説明	

記述の際の注意点

SQLのクエリの処理内容に関しては、「文章で抽象的に記述する」事。詳しいSQL文の記述内容は記述を行わない。
メソッドに「引数の数」や「引数の型名」、「ローカル変数名」「戻り値型」等は記述しない事。これらは、開発の過程で、プログラマの裁量により多くの頻度で変更になる恐れがあるため、変更に多くの工数を費やすためである。メソッドは、「メソッド名のみ」にとどめておく。
プログラマの裁量に任せられる部分は記述しないこと。事細かく書かなくても、プログラマには分かるため、詳しく書くために工数を費やす必要はないためである。
使用するアノテーション名などは、具体的には書かないこと。（開発の過程で多少の変更が多々あるため。） 「どういった機能を付与したいのか」を文章で最低限に記述する事。 付与したい機能さえ把握できれば、使用するアノテーションはプログラマが選定してくれるからである。